

2019 年利尻山山岳年報（簡易版）

佐藤雅彦（利尻町立博物館）

岡田伸也（株式会社トレイルワークス）

室田雄飛（環境省稚内自然保護官事務所利尻事務室）

利尻山では、利尻山登山道等維持管理連絡協議会（以下、協議会）を中心として、様々な行政機関や民間団体、ボランティアなどが協働しながら、山岳環境の課題への対処を実施している。以下、筆者らが知りうる範囲内で、2019 年における利尻山の記録を書き留めておく。なお、本報をまとめるにあたり、協議会事務局、利尻富士町役場、利尻町役場、稚内警察署駕泊駐在所、利尻島スノーモービル適正利用協議会、などから、事業概要、統計および調査データなどの情報提供をいただいた。この場を借りてお礼申し上げる。

1. 登山者数

2019 年も前年に引き続き、カウンター機器不具合によりデータは記録されていなかった。不具合の原因は不明だが、記録カードの寿命などが想像された。ただし、機器背面に表示されていた数値の写真撮影により、カウンター設置期間中の総数は判明したため、表 1 には入山者数および下山者数、およびそこから算出される登山者数を記した。カウンターによる記録は、

表 1. 年別登山者数の変化（集計日：2020. 2/10）

年		和暦	H27	H28	H29	H30	R01
		西暦	2015	2016	2017	2018	2019
公表値 ^{a)}			8434	8081	8790	－	－
カウンター (6-10月)	入山者数	駕泊	7882	7458	8335	(3339) ^{d)}	7646
		杓形	534	451	404	欠測	356
		合計	8416	7909	8739	－	8002
	下山者数	駕泊	8140	7545	8378	(3386) ^{d)}	7756
		杓形	409	436	403	欠測	344
		合計	8549	7981	8781	－	8100
	登山者数	駕泊	8011	7502	8357	(3363) ^{d)}	7701
		杓形	472	444	404	欠測	350
		合計	8483	7946	8760	－	8051
登山計画書 (1-5, 11-12月) ^{b)}		駕泊	15	－	－	－	－
		杓形	2	－	－	－	－
		ほか	1	－	－	－	－
		合計	18	172	51	67	－
全期間 集計	登山者数	駕泊	8026	－	－	－	－
		杓形	474	－	－	－	－
		ほか	1	－	－	－	－
		合計	8501	8118	8811	－	－
登山計画書 (6-10月) で 把握できた人数			5143	4134	4913	4608	－
計画書による把握率 ^{c)} (%)			61	52	56	－	－

登山者数は従来の算出方法による。「入山者数」「下山者数」の定義のほか、推定方法などは佐藤 (2010) を参照のこと。また、登山道補修 (株)トレイルワークス) での人数はあらかじめ除いて処理している。

a) 集計期間は1-12月の年区切り、集計方法は「入山者数」(カウンター入山方向計測値(6-10月分) + 回収済み登山計画書によって把握できた人数(1-5月、11-12月分))による。

b) 2016 年以降、駕泊・沓形の内訳が不明なため、合計数のみを示す。

c) 「登山計画書 (6-10 月) で把握できた人数」 ÷ 「カウンター (6-10 月) 入山者数」

d) 機器不具合により 7/7 ~ 8/24 まで欠測

利尻山の登山者動向を知る唯一といってもよいデータであり、今後、機器の不具合が解消されることを願いたい。また、協議会が発行する登山計画書については、回収後の集計作業が2019年以降は実施されなくなったため、計画書も含めた登山者数や把握率なども不明となった。

2. 携帯トイレ

過去5年間の携帯トイレの販売数の変化を表2に示した。なお、2019年より北麓野営場の回収数調査は終了となり、沓形登山口の回収数調査も実施されなかったため、回収率は

表2. 利尻島における携帯トイレ販売箇所別販売数(集計日:2020.2/10)

年		2105	2016	2017	2018	2019
利尻富士町	宿泊施設	2537	1931	1964	1820	2180
	商店・コンビニ	490	500	660	592	560
	観光案内所	141	208	134	111	60
	キャンプ場	319	294	265	182	210
	温泉	30 ¹⁾	42	-	-	50
	小計	3517	2975	3023	2705	3060
利尻町	宿泊施設	221	201	203	131	122
	商店・コンビニ	100	92	67	50	32
	観光案内所	3	3	0	0	0
	キャンプ場	0	0	0	15	16
	その他	0	0	5	1	1
	小計	324	296	275	197	171
計		3841	3271	3298	2902	3231

¹⁾ 台帳が残っておらず聞き取りによる概数で集計した

不明となった。佐藤ほか(2018)で示したように、携帯トイレの回収率調査はその初期段階で大きな役割を果たしたが、近年ではいくつかの課題もあり、今後は利用率などのより直接的な調査へと推移していくことが望まれる。そこで、利尻町立博物館では所持率調査を9/8に実施した。10:40-

16:40の間、下山者67名の全員から聞き取りが行われ、60名(89.6%)が携帯トイレを所持していることが明らかとなった。なお、本調査ではツアーリーダーが所持していると答えた場合は全員が所持しているとみなした。前述のように2019年は日ごとの入山者数および下山者数がカウンター不具合により記録されていなかったため、詳細な解析ができた

表3. 2019年遭難救助出動実績

月日	救助出動	通報時の態様	救助地点	年齢	性別	住所	パーテイー人数	組織/未組織の区分	概要	登山届提出
3/25	警察14名、ヘリ1機	低体温(?)	南陵上部(1700m)	25	男	東京	2	山岳会	何らかの理由で1名のアイゼンが脱落・紛失し、身動きが取れなくなり、救助要請となった。	○
7/6	警察2名、ヘリ1機	転倒および持病	鴛泊登山路・避難小屋	59	男	奈良	1	個人	転倒し、軽傷を負うが、持病もあり下山できなくなった。夜、通報があり、翌日ヘリにて救助	×
7/11	警察2名、ヘリ1機、消防4名、役場4名	迷入	小ボン山の麓	57	男	愛知	1	個人	道に迷い、救助要請。	×

上記表は、稚内警察署鴛泊駐在所からの聞き取りによる。

かった。また、対面調査では「所持している」と答えたが、実際は所持していなかったことを、後日ブログにて告白している登山者もいたため、対面調査の方法について今後再検討を窺わせる結果となった。

3. 登山道における施設及び器機などの設置状況

2019 年では大きな変更などはなかった。

4. 事故・遭難

駕泊駐在所における聞き取り調査により、2019 年の山岳遭難などを表 3 にまとめた。

5. その他

スノーモービルの利尻島における歴史は、昭和 50（1975）年代に遡り、暖房用の薪運搬や猛吹雪などの緊急時の患者搬送などに利用されてきたほか、近年では冬のレジャーや利尻山のバックカントリー移動手段としても使用されている。しかし、利用者増加によるルール策定に向けた機運が高まり、2018 年に地元スノーモービル愛好者を中心に利尻島スノーモービル適正利用協議会が立ち上げられ、環境省や林野庁、各行政機関と連携し、利尻山冬季利用ルール策定に向けた勉強会や意見交換会などが、2019 年より開催されている。

利尻山登山道等維持管理連絡協議会の総会は、2017 年以降開催されていない。

山頂付近の、通称 3 m スリットと呼ばれる登山道荒廃箇所、一部に階段が設置されたほか、登山道脇の裸地壁面の一部には植生ネットが敷設された。

参考文献

佐藤雅彦・岡田伸也・今泉潤，2018. 利尻山における携帯トイレの所持率. 利尻研究, (37): 83-88.